

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準
 A:非常に効果的であった(達成率≧100%)
 B:相当程度効果があった(70%≧達成率>100%)
 C:効果があった(50%≦達成率<70%)
 D:効果がなかった(達成率<50%)
 -:効果検証ができないもの

基本目標1:儲かる地域をつくとともに、安定した雇用を創出する

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価	R5年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
農業総収入額	48.3億円	49.3億円	43.8億円	B	【R5実績値の要因分析】 令和4年産に比べ米価は値上がりしたが高温障害により米の品質が低下したことにより1等米の比率が低下し、さらに収量が減少したことにより農業総収入が目標値を大きく下回る結果となった。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 生産費の高騰が特に著しいものに対し、国・県と連携し、近年の異常気象に対応した技術指導を実施し、水稻を中心とした複合経営を推進し農業経営の安定化に取り組む。	49.3億円
木材生産量	6,023m ³	6,384m ³	11,816.m ³	A	【R5実績値の要因分析】 バイオマス発電所用の燃料用チップ等の需要増や外国産材の輸入量減少により、木材生産量が一時的に増加したが、需給バランスが落ち着き平年並みになったと考えられる。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 森林経営管理法に基づき、引き続き今後の森林経営管理に関する経営管理権集積計画策定の進捗を図り、森林整備に繋げるとともに、ふくしま森林再生事業による間伐や路網整備等の森林整備を実施し林業の振興に取り組む。	6,504m ³
町内企業の新規就業者数 (新卒採用)	0	40人	17人	D	【R5実績値の要因分析】 町内企業において新規就業者を募集しても応募がない状況があり、目標値を下回った。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 高校生を対象とした、合同企業説明会を通して2人の実績を確認したため、引き続き合同企業説明会を実施する。また大卒者に対しては就職フェアなどで企業が独自でPRを促す。	40人

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率≧100%)
- B:相当程度効果があった(70%≧達成率>100%)
- C:効果があった(50%≦達成率<70%)
- D:効果がなかった(達成率<50%)
- :効果検証ができないもの

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価(案)	R5年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
(1)農産物の高付加価値化及び安定した販路の確保						
農産物加工に取り組んでいる農家数	19戸	24戸	24戸	A	<p>【R5実績値の要因分析】 町ホームページや農事組合を通じた周知や窓口での声掛けなどを行った結果、町単独の補助金を活用し農産物加工に取り組む農業者が1名増加した。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 農産物加工への取組みを希望する農業者へ、知識習得のための講習会や県6次化サポーターの紹介等の情報提供や、町補助金を活用し、加工施設の整備及び機器の購入等の初期投資に係る負担を軽減することで農産物加工に取り組む農業者を支援する。</p>	25戸
(2)農業を担う人材の育成						
認定農業者経営体数	259経営体	254経営体	207経営体	B	<p>【R5実績値の要因分析】 新規認定者を高齢を理由に再認定を断念した認定農業者が上回ったことにより、認定農業者数が減少した。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 就農希望者へ青年等就農計画の作成支援や初期投資に係る支援、研修機会、農業委員会と連携した農地のあっせん等の支援を行い、まずは新規就農者を確保し、新規就農者の青年等就農計画(計画期間5年)終了後は、認定農業者への移行を働きかけ認定農業者を確保する。加えて、地域おこし協力隊制度を活用し農業担い手の確保・育成を図る。</p>	254経営体
(3)林業の育成に向けた基盤づくり						
林道密度	5.66 m/ha	5.78 m/ha	5.71 m/ha	B	<p>【R5実績値の要因分析】 林道開設工事の実施により、前年度から0.02ポイント上昇したが、現場状況により工事が完了しなかった路線があり目標値には達しなかった。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 引き続き林道開設工事を行い、効率的な森林整備施策に向けたインフラを整備し林業の振興を図る。</p>	5.81m/ha
森林保全を目的とした施業面積	206ha	265ha	133ha	C	<p>【R5実績値の要因分析】 森林保全を目的とした間伐等の森林整備は、国有林における施業面積の減少と、民有林における林業事業体の施業計画箇所が町外の区域であったため、町内の施業面積は目標値まで達しなかった。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 森林の有する公益的機能の維持増進を図るため、森林経営管理制度の趣旨に基づき長期間整備が行われていない森林を対象に森林所有者の経営管理に関する経営管理権集積計画策定に係る調査を行い森林整備を推進し施業面積を増加させる。</p>	271ha

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準
 A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
 B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率 $<$ 100%)
 C:効果があった(50% \leq 達成率 $<$ 70%)
 D:効果がなかった(達成率 $<$ 50%)
 -:効果検証ができないもの

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価(案)	R5年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
(4)町内事業所の稼ぐ力向上及び新規創業への支援						
創業支援事業に係る受講者数の件数	56人	56人	35人	C	【R5実績値の要因分析】 物価高などの影響で事業継続を断念した事業者もあり、安定した雇用を選択する傾向がみられる。そのため金融機関への創業希望者が減少し、受講者数が前年と比較し減少したと考えられる。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 創業支援事業のメニュー等をHPやチラシにより広報し、創業機運の醸成を図る。また、関心のある相談者に対し、研修の受講を進商工会や金融機関と情報を共有する。	56件
(5)若年世代の就職支援						
合同企業説明会への参加者数	0	50人	45人	B	【R5実績値の要因分析】 令和4年度から開始した事業であり、全体プレゼン型の会津西陵高校の3年生を対象とした就職説明会である。就職に関心のある生徒の約30%の参加があった。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 学校側との連携を強化するとともに、会津西陵高校以外の高校からも参加の意向があることから受け入れできるような事業を整理する。	50人

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準
 A:非常に効果的であった(達成率≧100%)
 B:相当程度効果があった(70%≧達成率>100%)
 C:効果があった(50%≦達成率<70%)
 D:効果がなかった(達成率<50%)
 -:効果検証ができないもの

基本目標2:本町と多様に関わる人を増やし、新しい人の流れをつくる

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価(案)	R5年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
人口における社会動態(転入-転出)	△ 58人	△ 36人	△ 83人	D	<p>【R5実績値の要因分析】 転出超過となっており、特に10~20代の若い世代が大学等進学や就職のために多く転出することや、希望する就職先が地元が少ないことが主な要因として考えられる。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 若い世代の地元就職や、進学等で転出した若い世代がUターンできるよう、庁内連携して、就職説明会を実施、就職先の情報を発信していく。また、首都圏を中心としたプロモーションを実施しながら、移住定住施策の情報を発信していく。</p>	△ 33人
関係人口の創出に取り組む企業・団体・個人の数	0	3件	4件	A	<p>【R5実績値の要因分析】 各団体等と町が連携して事業を実施することにより、関係人口の創出に取り組む団体等数を前年度から維持することができた。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 今後も町が各団体等と連携して事業を実施することにより関係人口の創出に取り組んでいく。</p>	4件

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準
 A:非常に効果的であった(達成率≧100%)
 B:相当程度効果があった(70%≧達成率>100%)
 C:効果があった(50%≦達成率<70%)
 D:効果がなかった(達成率<50%)
 -:効果検証ができないもの

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価(案)	R5年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
(1)観光を入口とした交流人口及び関係人口の創出						
町内宿泊施設の宿泊者数(年間)	16,155人	16,500人	11,379人	C	【R5実績値の要因分析】 新鶴温泉んだのリニューアルに伴い、一時休館としていたため宿泊者数が減少したが、キャンプ場による町内キャンプ場の利用者が増加により、全体の宿泊者数は令和4年度より増加した。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 町内宿泊施設の核となる、新鶴温泉んだやせせらぎ公園などと協力し、スポーツ(学生合宿など)やアウトドア、只見線などと組み合わせたプランを構築し、宿泊者数の増加に繋げる。	16,550人
観光施設の入込客数	57,000人	62,000人	26,000人	D	【R5実績値の要因分析】 コロナ禍の影響により、施設が閉鎖したことが減少の要因と考えられる。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 観光客の誘客に向けて、時代に沿ったイベントへの見直しを図るとともに、観光協会との連携を図り、タイムリーな観光情報の発信を行っていく。	63,000人
レンタサイクル貸出件数	76件	85件	123件	A	【R5実績値の要因分析】 昨年度より数値は減少しているものの、本郷インフォメーションセンターでの貸出件数が増加しており、向羽黒山城跡への来訪者や、会津本郷焼目的の来訪者と考えられる。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 観光協会のホームページやインスタグラムなどでレンタサイクルを紹介するなど、さらなる情報発信に勤める。	90件
(2)空き家の利活用による移住・定住の促進						
空き家バンク等による空き家の利活用件数(累計)	16件	46件	61件	A	【R5実績値の要因分析】 令和5年度は、6件(売買6件、賃貸0件)の空き家が成約となり利活用され、移住定住の促進につながった(令和4年度累計55件)。空き家の増加とともにニーズも増え、空き家バンク登録相談と、空き家利活用相談は増加傾向にある。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 物件数を上回る空家ニーズがあるため、登録物件数の増加が図られるよう、空き家セミナーを開催するなど物件の掘り起こしと住まいるバンクの周知を継続して実施する。	51件

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準
 A:非常に効果的であった(達成率≧100%)
 B:相当程度効果があった(70%≧達成率>100%)
 C:効果があった(50%≧達成率<70%)
 D:効果がなかった(達成率<50%)
 -:効果検証ができないもの

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価(案)	R5年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
(3)移住・定住の促進						
定住した地域おこし協力隊員の数(累計)	0	7人	6人	B	【R5実績値の要因分析】 令和5年度に任期満了となった隊員は1名であったが、協力隊で培ったスキルを活かせる就職先を会津若松市内に見つけ、利便性の良い会津若松市内に転出した。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 「地域おこし協力隊サポート業務」として、OG・OBである民間事業者へ業務委託し、隊員に寄り添ったサポートを通じて、隊員の定着率向上を図っていく。	7人
移住・定住相談窓口を通じた移住・定住世帯数(累計)	26世帯	57世帯	67世帯	A	【R5実績値の要因分析】 移住定住支援業務を民間委託し専任のコーディネーターを配置していることにより、きめ細やかな相談体制の充実に努めることができた。また、移住定住者に対する住宅取得費補助金が大きな要因となっている。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 引き続き、専任コーディネーターと連携して、きめ細やかな相談体制を続けていく。	61世帯
住宅新築・増改築件数	121件	68件	57件	B	【R5実績値の要因分析】 前年度実績より2件減となり、目標値には及ばない。物価上昇による建築費用の上昇や、金利上昇による資金調達の困難化により、伸びが鈍化していると考えられる。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 住宅建築支援事業の啓蒙に努める。	68件
(4)小中学生及び高校生のまちづくりへの参画						
今住んでいる地域の行事に参加している子どもの割合(小学6年生)	81.0%	87.5%	77.9%	B	【R5実績値の要因分析】 各学校においては、故郷の歴史や伝統について学び、興味関心を高め、地域を代表する行事への参加には意欲的である。一方で、地域の行事は運営主体の高齢化によって、規模縮小や運営の見直しなどを迫られており、受け皿が脆弱になっていることも参加率が伸び悩んでいる要因と考える。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 今後も、折に触れて受け継がれてきた祭りごとの意義や継承してきた思いや誇りについて伝え、積極的な参加を促していく。特に、小学生については、地域ごとに若い親世代への参加啓発が重要と考える。	91.5%
今住んでいる地域の行事に参加している子どもの割合(中学3年生)	61.8%	75.5%	61.6%	B	【R5実績値の要因分析】 各学校においては、故郷の歴史や伝統について学び、興味関心を高め、地域を代表する行事への参加には意欲的である。一方で、地域の行事は運営主体の高齢化によって、規模縮小や運営の見直しなどを迫られており、受け皿が脆弱になっていることも参加率が伸び悩んでいる要因と考える。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 今後も、折に触れて受け継がれてきた祭りごとの意義や継承してきた思いや誇りについて伝え、積極的な参加を促していく。特に、中学生については、自分たちが地域を盛り上げていくという意識を高めることが重要と考える。	76.0%

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準
 A:非常に効果的であった(達成率≧100%)
 B:相当程度効果があった(70%≧達成率>100%)
 C:効果があった(50%≧達成率<70%)
 D:効果がなかった(達成率<50%)
 -:効果検証ができないもの

高校生が参画する地域課題解決の取組件数	0	1件	3件	A	【R5実績値の要因分析】 町の実施する事業と高校生が取り組みたい課題がマッチングし、連携した取り組みを行えたものが3件あった。2年次の学習計画発表時に各課から多数の職員が学校に伺い、具体的な助言を行ったことも、町の事業への参画につながったと思われる。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 高校側と連携し、高校生が地域課題解決に参画できる機会を提供し、若い視点からのアイデアを地域課題解決に取り入れる。	1件
(5)大学等との学官連携の推進						
町と大学等が共同で取り組む調査研究事業件数(累計)	3件	9件	11件	A	【R5実績値の要因分析】 「森林資源の利活用のための地域内経済循環システムの構築」について調査研究を行った。町及び大学が連携し、森林を核とする地域資源活用の実情及び現状の課題を、町内の関係機関へヒアリングし情報収集を行った。また、地元学生らを対象に大学が開発した課題発見ゲームを用いたワークショップを開催し、地域資源である森林への関心を高める機会を創出した。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 町及び大学、さらには地域の関係者らと連携しながら令和5年度からの調査研究事業を継続し、地域資源である森林の利活用に向けた検討及び実証を行う。	10件
(6)ふるさと納税を通じた資金調達及び関係人口の創出						
3年連続または返戻品なしで本町にふるさと納税を行った寄附者の数	116人	106人	161人	A	【R5実績値の要因分析】 前年と比較し、返礼品なしの寄附者は減少したものの、3年連続寄附者は増加している。寄附申込の際のアンケート結果より、返礼品に魅力を感じている寄附者の割合が増加していることから、人気返礼品への継続した寄附者が増加したと思われる。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 今後も継続した寄附者が増加するよう、寄附金の使途を公表することで、本町への関心や寄附への意欲を高めてもらうとともに、魅力的な返礼品の提供や、ふるさと納税サイトの整備・拡充等に努める。	106人

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率 $<$ 100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率 $<$ 70%)
- D:効果がなかった(達成率 $<$ 50%)
- :効果検証ができないもの

基本目標3:結婚・出産・子育ての希望をかなえる

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価(案)	R5年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
年間出生者数	113人	100人	69人	C	<p>【R5実績値の要因分析】 目標値100人に対して69人の出生数(69%)となり、昨年度の実績値より△9人となった。20~39歳の人口が転出等により、子育て世代の人口が減少したことが要因とみられる。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 安心して妊娠・出産できるよう、切れ目のない適切な支援を継続して行う。また、子育て世代への支援はもちろん、職場環境等の社会全体的な理解を促していく。</p>	100人
子育てしやすい環境(育児や保育など)のまちだと思ふ町民の割合	76.5%	81.3%	64.6%	B	<p>【R5実績値の要因分析】 子育て支援に関する給付事業等を実施し妊娠・出産・子育て世代への支援サービスの充実に務めた結果、前年度より微増したものの、放課後児童クラブの待機児童が発生している状況等もあることから目標値から大幅に下回ったと考えられる。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 今後は、国においても、子育て政策の抜本的強化策の一つとして学校給食費の無償化に向けた課題の整理について議論されることから、その動向を注視していく。さらなる子育て支援サービスに関する情報発信や放課後児童クラブの活動の場やスタッフの確保等、早急な対応が求められている。</p>	82.0%

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準
 A:非常に効果的であった(達成率≧100%)
 B:相当程度効果があった(70%≧達成率>100%)
 C:効果があった(50%≦達成率<70%)
 D:効果がなかった(達成率<50%)
 -:効果検証ができないもの

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価(案)	R5年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
(1)出会いと結婚の支援						
婚活事業によるカップル成立数	0	3件	6件	A	【R5実績値の要因分析】 町補助金を活用したイベントによるカップル成立数が4件、委託事業のよる婚活イベントでのカップル成立が2件となった。事業についても参加者に浸透しており、参加者が増え、出会いの機運醸成につながった。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 委託事業のイベントについては、内容が例年どおりとなっている。新たな参加者層の獲得のため内容を変え、事業に興味を持ってもらえるイベント作りをしていく。	3件
婚活事業又は結婚相談員による結婚成立件数(累計)	0	4件	6件	A	【R5実績値の要因分析】 結婚・子育てコンシェルジュのサポートやみさと縁結びサポーターの支援を継続し、町イベントへの参加促進等を行ってきたことが成婚数の増加につながったと考えられる。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 結婚希望者の支援や、婚活イベントの開催を継続して実施していく。	5件
(2)妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援						
子育て支援教室(ミルク教室)に参加した子どもの数	258人	242人	89人	D	【R5実績値の要因分析】 妊娠届出数や出生届出数が減少していること、1歳からこども園に入園する幼児が増えていくことから、ミルク教室の参加者が減少している。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 乳児全戸訪問事業や健診等でミルク教室等の周知に取り組む。	242人
こども園・児童クラブの待機児童の数	3人	0人	2人	D	【R5実績値の要因分析】 児童総数は減少しているものの、核家族化や共働き世帯の増加等により学童保育の希望は増えている。特に、小学4年生～6年生の高学年の利用が増えている。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 各児童クラブの開設場所の更なる確保を目指す。また、支援員の増員について受託事業者に促す。	0人

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率 $<$ 100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率 $<$ 70%)
- D:効果がなかった(達成率 $<$ 50%)
- :効果検証ができないもの

(3)安心して出産・子育てしながら働くことができる環境づくり						
町内の主な企業の育児休業取得率(男性)	4.1%	6.0%	6.7%	A	<p>【R5実績値の要因分析】 事業所アンケートに回答した事業所のうち、1歳未満の子供を持つ従業員がいると回答した事業所数は15であった。そのうち男性従業員が育児休業を取得したと回答したのは1事業所(6.7%)となった。育児休業を取得する男性従業員への制度の周知や、業務配慮等の取り組みに対する事業所の意識の差が要因と考えられる。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 育児休業の取得に関する情報提供や周知・啓発を行う。</p>	6.0%
町審議会・委員会における女性の割合	23.4%	27.3%	29.1%	A	<p>【R5実績値の要因分析】 女性の視点からの意見を各種委員会等での検討事項により反映させるため、委員構成にあたっては女性委員として参加してもらうよう配慮した委員の募集等を行ったことで、令和5年度の目標値に対する女性委員の割合が増加したと考えられる。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 仕事や子育てなど様々なライフスタイルを持つ女性が、町の様々な分野における委員会へ広く参画できるよう、ペーパーレスやオンラインによる会議時間の短縮や効率化を図る。</p>	28.1%

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準

- A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%)
- B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率 $<$ 100%)
- C:効果があった(50% \leq 達成率 $<$ 70%)
- D:効果がなかった(達成率 $<$ 50%)
- :効果検証ができないもの

基本目標4:質の高い安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価(案)	R5年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
防災・消防体制が充実していると感じる町民の割合	67.0%	75.6%	63.9%	B	<p>【R5実績値の要因分析】 町民の防災意識の高揚を図るため、出前講座などの啓発活動を行ったが、全国で多くの災害が発生しており、住民の災害に対する意識が高まっており、相対的に基準値と比べ実績が低くなったと考えられる。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 町民の防災意識の高揚を図るため、出前講座などの啓発活動や防災訓練を実施する。</p>	77.4%
地域の活動が活発化し、魅力ある地域がつけられていると感じる町民の割合	49.8%	51.4%	46.4%	B	<p>【R5実績値の要因分析】 昨年度の実績と比較し、0.8%増加しているものの、令和5年度の目標値より5%低い実績値となり、地域活動が活発であるとはいえず、魅力ある地域づくりの取り組みには課題が多い状況である。新型コロナウイルスによる地域活動への参加機会の減少、その間に進んだ急速な少子高齢化や人口減少等の様々な問題が起因していると考えられる。</p> <p>【目標達成に向けた今後の取り組み】 集落支援員と連携し、地域課題の把握と支援活動を継続する。</p>	52.0%

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準
 A:非常に効果的であった(達成率≧100%)
 B:相当程度効果があった(70%≧達成率>100%)
 C:効果があった(50%≧達成率<70%)
 D:効果がなかった(達成率<50%)
 -:効果検証ができないもの

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価(案)	R5年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
(1)遊休資産の地域資源化						
空き家バンク等による空き家の利活用件数(累計)	16件	46件	61件	A	【R5実績値の要因分析】 令和5年度は6件(売買6件、賃貸0件)の空き家・空き地が成約となり利活用され、移住定住の促進につながった(令和4年度累計55)。県外在住者の移住希望の相談は増加傾向にあり、空き家バンクのニーズが高まってきていることが要因と考えられる。 【目標達成に向けた今後の取り組み】需要に対して供給が追いついていない状況である。登録物件数の増加が図られるよう、物件の掘り起こしと住まいるバンクの周知を継続して実施する。	51件
(2)持続可能な公共交通体系の構築						
美里あいあいタクシーの利用者数	25,922人	27,750人	23,940人	B	【R5実績値の要因分析】 R4にAI配車システムを導入し、目的地まで乗り継ぎなしで行けるフルデマンド方式になったことにより、利便性が向上し、利用者は年々増加傾向にある。一方、高齢者の移動手段として定着はしたものの、利用者が固定化している状況であるため、目標値を下回る実績となった。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 町民需要に合わせ、町外医療施設への実証運行を行う。また、デマンド交通の本来の目的である「交通弱者である高齢者の移動手段の確保」という役割を維持しつつ、新規利用者の獲得に向け、各種情報媒体やノベルティ等を活用したPRに取り組む。	27,850人
(3)町民による主体的な地域活動の構築						
集落支援員の支援を受けて話し合いをしている地区の数	5地区	9地区	7地区	B	【R5実績値の要因分析】 地域活動を維持・継続させるため、町内各地区において、集いの場の設立や、自主防災組織の立ち上げ等について、話し合いを行い、7地区が集いの場を新たに立ち上げた。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 地域活動を活発にするため、地域住民への働きかけや、地域課題の把握と支援活動を実施し、地域の活性化と維持・強化に引き続き取り組む。	10地区
図書館での図書貸出人の人口千人当たりの人数	0	535人	569人	A	【R5実績値の要因分析】 年間を通じ企画展示や読み聞かせ会を実施し、また、子ども向け図書館だよりの発行や町lineを活用するなど図書館の情報発信に努めた結果、新たな登録者が前年比で8.8%増加し、図書貸出人の増加に繋がったものと考ええる。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 図書館HPや町広報に加え、SNSを活用し、図書館情報発信に努める。また、子ども読書推進のため、学校と連携した取組みや図書館イベントを開催し町全体の図書活動の充実に務めていく。	545人
地域再発見事業や出前講座等を活用した郷土学習に参加した人数	12人	65人	10人	D	【R5実績値の要因分析】 出前講座について、1回のみ開催にとどまったため目標を大きく下回った。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 地域再発見事業については広報等により周知を図るとともに、郷土資料館を有効利用し、町内文化財の魅力の情報発信に努めていく。	70人

令和5年度総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の基準値・目標値・実績値とその要因及び今後の取り組み

資料2

事業評価基準
 A:非常に効果的であった(達成率≧100%)
 B:相当程度効果があった(70%≧達成率>100%)
 C:効果があった(50%≦達成率<70%)
 D:効果がなかった(達成率<50%)
 -:効果検証ができないもの

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R5目標値	R5実績値	評価(案)	R4年度実績値の要因分析及び目標達成に向けた今後の取り組み	目標値(R6)
(4)健康で快適な生活づくりの推進						
実際にスポーツを行っている人の割合	35.4%	35.9%	43.0%	A	【R5実績値の要因分析】 感染症対策を踏まえ、ふれあいウォークも計画どおり開催できた。町民のスポーツ活動に親しめる機会創出に努めたため、一部の地域を除いては地区スポーツ大会等を開催することができた。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 基本的な感染症対策を踏まえつつ、町民のスポーツ活動の契機拡大に努めていく。	36.1%
集いの場の設置数	28箇所	42箇所	50箇所	A	【R5実績値の要因分析】 コロナの5類移行に伴い、生活支援コーディネーターによる、積極的な設置支援活動を展開できたため、目標を達成できた。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 地域課題の解決に向けた地域支援事業として、集いの場の設置とともに、統括する協議体の設置に向けて、生活支援コーディネーターや社会福祉協議会等と連携を図り、協議を進めていく。	44箇所
(5)地域における防災力の強化						
消防団員数	825人	770人	704人	B	【R5実績値の要因分析】 人口減少や高齢化により団員数は減少している。消防団員OBが機能別消防団員として再入団する取り組み等により減少数を最小限に抑えたが、結果として減少となった。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 消防行事の統合を行うことで、団員の負担軽減を図り、団員数の減少数を最小限に抑える。	770人
自主防災組織数	14箇所	27箇所	18箇所	C	【R5実績値の要因分析】 組織の設立支援金の周知や出前講座を開催しており、自治区長なども組織化の必要性に理解は示しているが、設立届の提出までは至らなかった。 【目標達成に向けた今後の取り組み】 福島県災害対策課と連携し、各地域へ自主防災組織の組織化への必要性を周知していく。	30箇所